



1



2



3



4



5



6



7

令和あらかわ病院の新たな視点

- 大学病院との緊密な連携体制の構築
- 災害拠点病院の指定をめざし、救急告示
- 脳血管・廃用・整形外科を中心としたリハビリ提供

1 急性期病棟でも早期リハビリの提供が行われている。 2 広いリハビリ室が設けられ、50人以上のセラピストが個別リハを提供 3 ICUは16床を有し、24時間365日、受け入れを行っている 4 陰圧室が20床あり、コロナ禍では多くの患者を受け入れた 5 透析ベッドが10床あり、最大で27人対応可能な設備が用意されている 6 管理栄養士が高頻度で病棟を訪れ、個別の栄養管理を実施 7 野村務院長

日本医科大学特別連携病院として 緊密な連携体制を構築

地域の拠点病院だった大学病院の後任として
日本医科大学と綿密に連携を行いながら
救急から回復期まで地域医療を支える

vol.61

病院新時代



社会医療法人社団正志会

令和あらかわ病院

(東京都荒川区)

腹腔鏡手術などの高度な手術も対応が可能だ



社会医療法人社団正志会
令和あらかわ病院
〒116-0012
東京都荒川区東尾久5-45-1
TEL: 03-6807-7500
診療科: 22科
病床数: 240床

域の皆様との橋渡しをすること
で、質の高い医療を提供していま
す」と説明する。

2023年12月15日から救急告
示病院となった同院だが、告示以
前より月100件ほどの救急搬送
の受け入れ実績を挙げると、救
急医療を充実させている。その中
心を担うのは、日医大付属病院の
高度救命救急センターから派遣さ
れた小笠原智子副院長。三次救急
の経験を活かして、24時間365
日、断らない救急をめざしている。

同院は目標の1つに災害拠点病
院の指定を受けることをめざして
いる。野村院長は「現在、荒川区
に災害拠点病院はありません。で
きるだけ早く災害拠点病院に指定
され、より高度な医療を提供し、
『令和あらかわ病院があるから安
心』と言ってもらえる病院をつ
くっていきます」と決意を語った。

東

京都荒川区の地域医療
の拠点病院として機能
していた大学病院が区
外へ移転することとなり、地域医
療を守るために跡地に2023年
4月1日、令和あらかわ病院は開
院。野村務院長は「社会医療法人
社団正志会の病院であり、荒川区
の病院ではありませんが、区民の
ための病院だと考えます」と話す。

もともとあった大学病院は救命
救急センターを持つ三次救急医療
機関かつ区内唯一の災害拠点病院
として地域医療の拠点となってい
た。そのため、後任を担う病院も
同水準の体制の構築が求められて
いた。そのなかで同院は唯一の「日
本医科大学特別連携病院」として、
大学病院との密接な連携体制を築
き、地域の要望に応えている。特
別連携病院としての強みは、立地
が近く、医師派遣や患者の紹介・
手術や検査の依頼等をより密に行
えるところにある。日医大から派
遣されている医師は非常勤も含め
て約40人で、日本医科大学付属病
院の紹介は月100件弱を受けて
いる。野村院長は「高度急性期へ
の紹介・転院にとどまらず、職員
も含めた双方向の強固な連携体制
を構築しています。大学病院と地

写真=原恵美子